



アオコの発生した相模湖(写真提供:小西一郎:市民部会 2006年8月下旬撮影)

Contents

2007年度桂川・相模川流域協議会定期総会	2
・ 総会の概要“ 実のある ”総会へ!	
・ 講演「石丸積工法で川を甦らせる」	
森づくり専門部会	4
・ 「流域材の可能性」	
シリーズ エコへの一歩	5
・ 『理想のエコ生活』をおくりたい だけど、現実は?	
さまざまな活動をしています	6
・ 「環境循環型まちづくり」を訪ねるツアー(石川県金沢市)	
・ 岐阜県揖斐川町への視察に参加して	
流域ウォッチング16 流域の市町村2007	8
シリーズ1 悪玉生物といわれても	10
・ アメリカザリガニの言い分	
いま流域で起きていること	12
・ 上野原市 ご近所の底力	
・ 相模原市 ホタルの再生その後	
地域協議会だより	14
・ 桂川・東部地域協議会	
・ 相模川よこはま地域協議会	
・ 相模川湘南地域協議会	
・ さがみはら地域協議会	

総会の概要

“実のある”総会へ！

宮野 貴(市民部会)



お決まりの総会は、もういやだ！

議長「只今説明のありました第1号議案につきまして、ご異議ございませんか？」

会員「異議なし」

議長「それでは、第1号議案は、事務局提案どおり決定しました。続いて、第2号議案の説明をお願いします」

どこにでもある、しかし、とっても変な“総会”という儀式的様子です。

「こんな総会はいやだ！こんなことをするために、集まったのではない！貴重な時間をもったくない！」宮野ばかりではなく、多くの人が思っていたのですが、なかなか変えられなかった総会のスタイルを、今年は思い切って変えてみました。

今年の総会

初めての試みですので、まずは、主な事業や活動について、担当幹事から説明し、それを基に意見交換することとしました。説明した事業・活動、説明者は次の通りです。

- 環境調査(水質一斉調査)〔宮野〕
- 上下流交流事業〔井上〕
- 森づくり専門部会(現地見学会)〔倉橋〕
- 流域シンポジウム〔宮野〕
- ツアー&ウォッチング〔牧島〕

時間的な制約から、伝えたい情報の半分も発表でき



見学会の説明をする倉橋さん

ず、また、十分な意見交換ができなかったことが心残りですが、担当した人、参加した人、参加できなかった人との情報交換・意見交換の必要性を改めて知る機会となりました。

地域協議会交流会

総会に引き続き「地域協議会の交流会」を行いました。

今まで、お互いがどんなことをやっているのか、おぼろげながら知っている程度でしたが、昨年度の活動について写真を中心に紹介し合いました。

- 桂川・東部地域協議会〔勝俣〕
- さがみはら地域協議会〔松川〕
- 相模川湘南地域協議会〔峯谷〕
- 相模川よこはま地域協議会〔林〕

地域性が出ている活動ばかりで、一つとして同じ活動がないことに、初めて気づき、感動しました。



意見を発表する蔵前さん

来年へ向けて

終了後、多くの会員から、「初めて知ったことが多かった」、「流域は多様だ!」、「私達と同じ様に苦労している」、「連携すべきことは多い」など、多くのご意見・感想を聞きました。改めて会員相互での情報交換の必要性と、皆さんの意識の高さを気づきました。

来年はもう少し多くの時間を確保し、突っ込んだ議論を、もっと多くの人参加でやりましょう!そのためにも、今年度の活動頑張りましょう!

「石丸積工法で川を甦らせる」

群馬県石積協同組合理事長 柴崎文彦

現在、日本全国の河川で、魚が病気になったり、いなくなってしまうという問題が起きていますが、これは水質の悪さが原因であるといわれています。水質汚染のうち、一番大きな問題であるのが、ダムの堆砂です。ダムの堆砂が原因で引き起こされた様々な環境問題については、新聞でも多く取り上げられています。国土交通省は、多額の予算を投じてモデル事業を実施していますが、それは対処療法に過ぎず、10年も経てば元通りとなってしまうことが予想され、根本的な解決策とはなっていないのが現状です。

私たちが関わっている、群馬県にある品木ダムも、堆砂が75%超となっています。品木ダムの水質は、大変酸が強いことから、年中石灰で中和する必要があります。ダムの堆砂の内訳は、石灰が40%、土砂が60%です。土砂が減れば、中和するための石灰も少なく済み、全体の堆砂が減ることになるのですが、なかなかいい方法が見つかりませんでした。従来での対応では、時間が経てばまたヘドロ化してしまうだけであり、根本的な解決にはなりません。

私たちが提案する石丸積工法は、水普請的な発想から生み出されたもので、石でえん堤を築くことにより、石の間に水だけを通すものです。土砂はダムに流れ込まないようにしているので、浚渫が不要になり、大幅な労力の削減になります。

また、この工法は、数多くのメリットがあります。

石の選別が簡単

石造りの必要がない

石丸積工法では、現場にある石をそのまま使うことができるので、石を造る工法の3分の1の労力で施工することができます。

植栽が可能

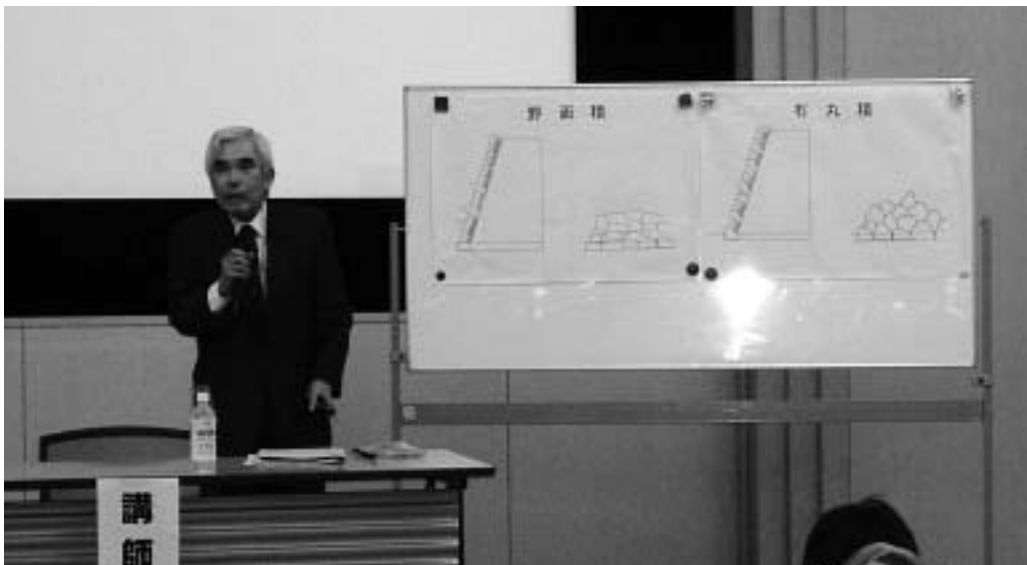
自然環境、生態系に好影響

群馬県で実施した水質試験で上流側及び下流側の濁度を比較した結果、下流側の数値が小さくなっていることが分かり、汚濁物質の吸着・ろ過等水質浄化に効果があることが証明されました。

コスト削減

材料費等の削減により、工事費が28%減と大幅に削減されるほか、コンクリートの不使用により、型枠や養生の必要がないため、工期の短縮も可能になります。

これだけの効果がある工法であるにも関わらず、新しいものはなかなか採用されないのが現状です。ぜひ多くのダムで採用していただきたいと考えています。



総会で「石丸積工法」を説明する柴崎理事長

「流域材の可能性」

相模原市 公共建築課 小俣 洋介

今回見学に赴いた大月市立猿橋小学校は、平成17年7月に校舎改築工事を行い、トップライトや広いテラスを設けるなどして、光あふれる小学校へと生まれ変わりました。また、壁材や床材、子供たちの机や椅子には流域材を使うことにより、光あふれる空間に温もりをという要素をプラスさせることが出来ていました。



光空間にぬくもりを与える木材

ここでいう流域材とは、ある河川に対して降水が集まる範囲(流域面積)に生息する木などのことを指します。その流域材など森林資源の循環的使用を促進することにより、荒れ果てた水源環境の保全・再生だけでなく、地域の活性化を促していこうというのが、流域材を広めようとする主な理由です。

では、木材など外国産が大半をしめるこの時代、どうすれば国産の流域材というものが広まるのか検討してみました。

まず、国産の流域材が広まらない要素を考えてみると、費用が高いことや我が国における現状の流域環境認識不足などが挙げられます。費用に関しては、現代において国産材が外国産材より安くなることはまず不可能であろうと考えられます。なので、安全性や耐久性など違う方面から国産材の良いところをアピールするしかないのであろうと思われます。また、流域環境の認知度を上げるためには、流域環境の問題を行政だけで抱え込むのではなく、地域や自治体などに一緒に考えてもらう必要があります。

例えば、小・中学生などにおいては、授業という受

身の形で流域環境を伝えるのではなく、現地に行くことや、植林や下草刈りをといった森林体験に参加してもらうなど、流域環境の現状を直に感じられる、主体の形で伝える必要があるでしょう。事実、東京の小学校緑化事業において、行政や業者だけでなく生徒や地域の人々が緑化活動に参加した小学校では、家で植物を育てる生徒が増えたり、地域の緑活動に参加する生徒が増えるなどという結果が得られました。つまり、授業という受身的な形ではなく、参加という主体的な形が、意識を大きく変え、流域環境問題というのが、一瞬のものでなく継続的に受け継がれていくのだと思います。

今回、猿橋小学校を見学させてもらい、話を聞き、調べていくうちに、地域の流域材を利用し活用することで、流域環境の保全・再生などハードの整備は進んでいくのだということを感じました。しかし、整備などのハード面を成功させていくためには、地域間の交流づくりなど、ソフトの面で多くの人をひきつけるようなことも必要だと思いました。

私が属する相模原市にも多くの小学校があり、毎年修繕工事などが存在します。流域材だけでなく、緑化など様々なソフトを伴える計画を考えていきたいと考えさせてくれる見学会でした。



ぬくもり空間に集まる子供たち



理想のエコ生活をおくりたい だけで、現実とは？

あらいそECOクラブ 梶 文(かじ あや)

今号で3回目を迎えた「エコへの一歩」。
子育て真っ最中のエコ主婦に立ちほかかる
数々の難門にどうやって向かっていくか？！
あらいそECOクラブメンバーに環境に関する
ランダムなアンケートをとってみました。

メンバー数10名、無回答、重複回答あり

- 1 お風呂で体や髪を洗うのは、
なにを使っていますか？
合成洗剤系...3名
石鹼(液状、固形)...6名
その他...0名
- 2 スーパーで袋をもらっていますか？
いつももらっている...1名
「必要ですか？」ときかれれば、もらわない
...2名
たいていマイバッグを持参し、袋はもらわない。
...2名
その他...3名
(ポイントが付けばマイバッグを持っていく。)
- 3 物が壊れると直す方ですか？
面倒だし、安いから新品を買いなおす場合が多い
...4名
もったいないので部品を取り寄せ、修理する。
...4名
その他...0名
- 4 夏至のキャンドルナイトって知ってる？
知ってる...3名 知らない...5名
- 5 車の買い替え、次はどうする？
(予定はなくても、なんとなくで)
ハイブリッドカーなどのエコカー...7名
今までどおりのガソリンタイプ...2名
ガソリン食いのスポーツカー...1名
その他...2名(カーシェアリング)
- 6 自分が環境を考えて実行していることを
簡単にどうぞ
・生ごみで堆肥をつくっている...4名
・自然に分解しやすい石鹼を使う...4名
・ごみの分別の徹底...4名
・自転車で生活をする...3名
・歩く生活をする...2名
・低燃費の運転を心がけている...1名
・節電、節水を心がけている...2名
・畑で野菜の有機栽培をしている...2名

アンケート3については、修理に使われる部品
の価格によって、修理か買い替えかを考えると
いう意見があります。アンケート5においても、
エコカーに買い換えたいのは当然だけど、今よ
り価格が下がっていくのか、見届けてという意
見が多いようです。それから、石鹼で衣服の洗
濯するのは本当に環境にいいのかという疑問の
声もありました。合成洗剤よりも水道、給湯を
多く使うので、「本当にこれで環境にいいのかし
ら」と。

現実と理想、ジレンマが見えてきます。

粉石けんで洗濯をする。石鹼はある程度の量
を使わないと泡立たず、洗濯物に石鹼カスが付
着する。 たくさん使う たくさん買う 合成
洗剤に比べると高価な洗濯石鹼なので、家計が
逼迫する。我が家では泥んこ遊び大好きな息子
2人の4人家族で生活クラブの粒状石鹼550円/
1.75キログラムを1週間に1箱使う。

スーパーのレジ袋がなくなれば、石油を使わ
ず、世界中のごみが減り、どれだけ環境にいいか、
と思っている。毎日。しかし、レジ袋は生活に密
着している。幼稚園の芋掘りの日は、「スーパー
のレジ袋に記名し、持参させる」ことになってお
り、子供が田んぼに入った日は汚れた洋服をレ
ジ袋に入れて帰宅する。赤ん坊の汚れた紙おむ
つはごみの日まで小さめのレジ袋にぎゅっとし
まわれる。犬の散歩風景を見ると、片手にリー
ド、片手にうんちの入ったレジ袋。

それでも！それでも、袋が有料になると別の
方法を考えるのではないかと思っている。人間
は賢いからだ。

「環境循環型まちづくり」を訪ねるツアー（石川県金沢市）

劇的に減農薬して緑地管理する金沢市 7月13日

市民部会 石川 武久

かつては大量の農薬を散布して、市内の学校・公園・街路樹を管理していた金沢市が、今やその農薬使用量を劇的に減らしているという事を聞き、今年7月13日に、金沢市で研修、見学を行なって来た。レンタカー1台を借りて、7月12日夜10時に相模大野を出発し、途中上野原等で参加者を乗せた後、高速道路を夜通し走り続けて、7月13日朝早く金沢市に着いた。約3時間休憩した後、午前中は金沢市役所にて研修、午後は市役所近くの公園を視察した。



緑地管理について説明を受ける参加者

金沢市役所では、先に来ていた「建物と人と環境のフォーラム」の人達と合流し、結局、桂川・相模川流域協議会から8名、「建物と人と環境のフォーラム」から7名、計15名の参加となった。午前中は10時から昼まで金沢市役所で、市役所職員(緑と花の課)の方3名に出席して頂き、金沢市の緑地管理について説明を受けた。それによると、金沢市では、昭和49年に「緑の都市宣言」をして、市内の緑地管理を積極的に始めた。そして、市内の緑を守る為、以後27年間に亘り、一斉薬剤散布による害虫防除を行なって来た。防除の対象となる害虫は主にアメリカシロヒトリとチャドクガである。

例えば平成12年度の薬剤散布量は実に年間約200万リットルにも達していた。それを平成13年に人の健康や自然環境に配慮して、出来る限り薬剤を使わないで、捕殺による防除をする事に切り替えた。その結果、平成16年度17年度の薬剤使用量は年間約5万~8万リットル、実に平成12年度の2.5%~4%へと激減させている。それを可能にしたのは、市民からの、農薬を使用しないで欲しいとの要望に正面から取組んだ「緑と花の課」等を中心とする市当局と、これと協働した町内会の組織的取組み、努力があるとの事。私には

特に後者の存在が重要と思われた。



公園内での害虫捕殺の実演

午後、市役所近くの公園に、近くの町内会の人、十数人に集まって頂き、害虫捕殺の現場を見せて頂いた。はしごや高枝切りバサミ等を持って集まった町内会の人達は、手際よく害虫及びその巣を枝ごと切り落とし、集めて袋に入れていた。中でリーダーをやっている人(地区防除相談員)から話を聞いた。それによると、害虫の発生時期には手分けをしてパトロールをし、簡単な場合は自分達で防除する。中には元、植木屋さんをやっていた人などもいて、結構上手に、楽しくやっているとの事。又、自分達で手に負えない場合は、町内会長から、予め市が指定している地区指定防除業者に直接防除を依頼するとの事。その際の防除経費の4分の3は市が助成するとの事。その様にして市と町内会が連携して早期発見、早期防除に努めているとの事である。但し、今は順調に動いているが、この様になるまでにはいろいろ苦労があり、例えば初めは市の担当課長が町内会に依頼に行っても猛反発をくらって、その説得が大変だったとの裏話が印象的だった。



今日の捕殺の成果 ビニール袋いっぱい

岐阜県揖斐川町への視察に参加して

平塚市議会議員 江口 友子

私は、この視察を機に、桂川・相模川流域協議会のメンバーに入れていただくことになりました。平塚の井上駿さんのお誘いで、参加したわけですが、その充実した視察内容とメンバーの皆さんが下水処理について非常に熱心に議論されている様子を拝見して、ぜひ、私も入れていただきたいと思った次第です。



熱心に聞き入る参加者

揖斐川町の農業集落排水事業の見直しの取り組みには非常に驚かされました。既設合併浄化槽を下水道に繋ぎ込まないようにした結果、管路が9万4千メートルも短くなり、その結果、75億円もの建設費を削減できたという。

合併浄化槽は、農業集落排水事業などの集合処理と同じ処理能力を持っていることは、すでに現場の市町の職員が知るところであります。それにもかかわらず、集合処理計画の見直しが進まず、借金ばかりが増え続けているのが全国の現状ではないかと思います。

実際、平塚市においても、総事業費55億200万円の農業集落排水事業を市街化調整区域ですすめていて、昨年度からいよいよ本格的に管渠の建設工事がスタートしました。ざっと、1世帯あたり、500万円ほどの税金がかかる大事業です。どう考えても、金がかかりすぎだと思うのですが、この見直しがすすみません。

揖斐川町視察当日の8月22日は、町のなかをバスでまわりました。大小の点在する集落の間の細い道を回りながら、当初は農業集落排水事業計画地内に入っていたけれども、見直しの結果、個別処理になった集落をいくつも見ました。

当初計画のままですれば、延々と広がる畑の下に管渠を通していただけで、改めて、集合処理を人口密度が低い場所で行うことの無駄の大きさを実感することができました。

揖斐川町の計画の見直しは、岐阜県環境整備事業協同組合のイニシアチブがあったからこそすすめられたものではないかと感じております。通称「コロコロ」と呼ばれる道具を使って、何か月もかかって町内を歩いて測り直し、コンサルタント会社が見積もっていた管路の長さよりも、実際はもっと長い距離が必要である事、さらに膨大な金がかかる事を揖斐川町に伝え、行政と一緒に、見直しをすすめてきたということでした。事業計画見直しを支えたのが、こうしたパワーなのですね。本当にすごいと思いました。

後日、岐阜県環境整備事業協同組合の早川氏から、神奈川県の公共下水道事業の負債や本来、市民が負担しないといけない額がどのくらいになるのか、合併浄化槽を使う場合との比較などの資料を送っていただきました。先日私は、これをもとに、昨年度の決算審議に臨んでいます。

平塚市の農業集落排水事業の見直しは、まさにこれからです。がんばっていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



大型排水処理施設と点在する集落

流域の市町村 2007

都留市



市章：カナ文字、ツルの二字を形どって図案化した。

市の鳥：鶯

人口：32,754人（2007年7月1日現在）

面積：161.58km²

市制施行日：昭和29年4月29日

概要：「都留」の起源はむかし、富士の裾野を蔓のびた様子を想像し、「連葛」、「豆留」などと書かれていました。また、音の「ツル」から鶴を連想し、長寿の里として万葉集にも詠われました。そして、このめでたい地名にちなんで、私たちの町は「都留」と名付けられたのです。

大月市



市章：「大」を天に向けはねさせて全体を形づくり、力強さを、また中央の丸を「月」になぞらえ市民の和による発展を象徴、図案化したものです。

市の鳥：なし

人口：30,448人

面積：280.30km²

市制施行日：昭和29年8月8日

概要：県東部に位置し、都心まで約80kmの位置にあり、面積280.3km²、富士山方面・甲府市、長野方面への交通の分岐点であり、「信頼と協働のまちづくり」を目指した、自然豊かな都市です。大月の由来は、大槻（ケヤキの別名）が群生していたことから地区名を「大槻」と言うようになり、その後、駒橋（今の大月橋）より見た月がひときわ大きく見えたとことから「大槻」が「大月」となったと言われています。

上野原市



市章：美しい自然につつまれ、悠久の歴史と文化を誇る上野原市の「上」をモチーフにしています。市の将来像である「夢と希望あふれる快適発信都市」を表しています。

市の鳥：うぐいす

人口：27,890人（2007年7月1日現在）

面積：170.65km²

市制施行日：平成17年2月13日

概要：本市は首都圏に隣接し、緑豊かな自然と桂川が織り成す美しい流れのもと、数々の歴史・文化が息づいています。「安全・安心」「活力・個性」「連携・交流」を理念に、「夢と希望あふれる快適発信都市」を目指します。

富士河口湖町



町章：富士山を取り巻く湖と、さわやかな高原の風のイメージを表し、富士山と良いつながりを持って発展していくまちを表現しています。

町の鳥：未定

人口：25,742人（2007年7月1日現在）

面積：158.51km²

町制施行日：平成15年11月15日

概要：日本のシンボルである霊峰富士の北麓に位置する富士河口湖町は、緑豊かな自然と山々に恵まれ、青木ヶ原樹海に代表される森林と原野で覆われ、その間に火山噴出物で堰き止められた4つの湖、河口湖、西湖、精進湖、本栖湖があり、富士山の裾野に開けた青木ヶ原・富士ヶ嶺高原など広漠とした日本屈指の景勝地を形成しています。

西桂町



町章：辺をつかって、ニシカツラを表現しているが、これ一つにまとめ図案化したものであり、町が一つの輪になり協力し合い進歩、発展する姿を表わしている。

町の鳥：シジュウカラ

人口：4,874人（2007年7月1日現在）

面積：15.18km²

町制施行日：昭和27年9月15日

概要：JR大月駅から富士急行線で桂川に沿って里山の風景のなかを富士山に向かって電車は、コトコト進むとそこは西桂町。富士山の伏流水「桂川」と三ツ峠に源を発する「柄杓流川（ひしゃくながれかわ）」の水のめぐみにつつまれた「水のふるさと」です。

忍野村



村章：美しく雄大な富士の眺めは、「忍野富士」として広く全国に知られています。この景観と村の将来の力強い発展をカタ仮名の「才」で図案化し、また「シ」と「ノ」で円を構成して、村人の和（輪）を表現したものです。

村の鳥：つばめ

人口：8,772人（2007年7月1日現在）

面積：25.15km²

村制施行日：明治28年12月14日（中野村外一ヶ村組合を分離する）

概要：忍野村は富士北麓の標高およそ940mに位置する高原の盆地にあります。村内には山中湖から流れ出る桂川と、その支流に新名庄川があり、忍野八海にみられるように湧水が豊富で水質がよく、水量・水温ともに安定しています。

富士吉田市



市章：富士吉田市を図案化したもので、中央の富士型が「富士吉田市」の「富士」をあらわし、「吉」の字で円をつくり、裂地が「田」をあらわしている。

市の鳥：アカゲラ

人口：53,601人（2007年7月1日現在）

面積：121.83km²

市制施行日：昭和26年3月20日

概要：県の南東部、富士山の北麓に位置し、海拔750mの市街地を形成する高原都市。古くから富士山信仰の町として栄え、明治以降、織物が近代産業として脚光を浴びて以来、富士北麓地域の中心都市としての役割を担っている。

山中湖村



村章：富士山を上下にあわせた（富士山と湖に映る逆さ富士のイメージか？）マークのまん中に縦に山中という文字が入っています。

村の鳥：白鳥

人口：5,958人（2007年7月1日現在）

面積：52.81km²

村制施行日：昭和40年1月1日

概要：山梨県の東南部に位置し、南都留郡に属しています。総面積52.81km²、周囲13.5kmの山中湖を中心に、山中・平野・長池・旭日丘の4地区で構成されています。

道志村



村章：道志の「ど」を図案化したもので下の方の丸い部分は、村が平和の内に団結することを願い、上の部分は、翼を表現し、将来の発展と飛躍を象徴しています。

村の鳥：なし

人口：2,060人

面積：79.57km²

村制施行日：明治22年6月22日

概要：北東から西南に延びる山間に立地し、村の中央を道志川が北東に向けて流れる。道志川側沿いに国道413号が通っている。村全体は木の葉の形をしており、葉脈部分が道志みちに当たる。古くから道志十里と呼ばれてきた。



清川村



村章：丹沢山塊に囲まれた清川村をイメージし、頭に突起するのが丹沢山の頂上、これを源にして清い川が渓谷美をつくり、円満な村として発展することを象徴しています。

村の鳥：うぐいす
人口：3,319人(2007年7月1日現在)
面積：71.29km²

村制施行日：昭和31年9月30日
概要：清川村は、神奈川県唯一の村として、県内北西部の東丹沢山麓に位置する、東西12.6km、南北9km、総面積71.29km²の村です。面積の93%が山林で占められており、煤ヶ谷には小鮎川、宮ヶ瀬には中津川と早戸川がそれぞれ渓谷美や清流をつくっています。気候も比較的温暖で、自然の動植物の宝庫でもあります。

愛川町



町章：「アイ川」を図案化し、清流の美と人身の和を象徴しています。全体の円が町の円満をあらわし、右側「カタカナで「ア」、左側に同じく「イ」、中央の部が「川」を意味しています。

町の鳥：カワセミ
人口：43,877人(2007年7月1日現在)
面積：34.29km²

町制施行日：昭和31年9月30日
概要：神奈川県中央北部に位置し、都心から50km圏内、横浜から30km圏内にあり、町の西部には丹沢山塊の東端にあたる仏果山を最高峰とする山並みが連なり、東南部は相模川と中津川にはさまれた標高100m前後の台地が広がる中央部のくびれた「ひょうたん形」の地形となっています。山あり、川あり、自然と調和した美しい緑豊かな町が形成されています。

相模原市



市章：片仮名「サ」三つと片仮名「ハラ」を図案化したもので、市民が互いに手を取り合って明るく活気に進む姿、すこやかに伸び行く相模原市を象徴するもの。

市の鳥：ひばり
人口：705,183人(2007年7月1日現在)
面積：328.84km²

市制施行日：昭和29年11月20日
概要：相模原市は、都心から30~60km圏内にあり、交通の便もよいことから内陸工業都市、ベッドタウンとして発展を続け、都市機能の更なる集積が図られています。また、市の西部にあたる津久井地域は、県民の水がめである相模湖、津久井湖などを抱え、自然と共生する緑豊かな町並みや標高1,500mを超える山々に連なる森林地帯が形成されています。

厚木市



市章：市章はあつぎの3字と鮎3尾をもって「あ」の字型を図案化し、市民の和合と発展を象徴しています。

市の鳥：なし
人口：224,518人(2007年7月1日現在)
面積：93.83km²

市制施行日：昭和30年2月1日
概要：厚木市は、神奈川県中央に位置し、6市2町1村に接しています。市の東部は、遠く富士五湖の一つである山中湖に源を発する相模川の清流が南北に貫通し、これに併流する中津川、そして小鮎川、これら河川の流域に平野が開けている。東西13.68km、南北14.80kmの扇形に近い地形で、面積93.83km²を有しています。

座間市



市章：「ザマ」を図案化したもので、円形は市の融和と団結をあらわし、翼は市勢の飛躍発展を象徴しています。

市の鳥：シジュウカラ
人口：127,561人(2007年7月1日現在)
面積：17.58km²

市制施行日：昭和46年11月1日
概要：市民と協働で「だれもが故郷と感じ、これからも住み続けたいと思えるまち」、そして「みなぎる活力とやすらぎが調和するときめきのまち」を創造しています。

海老名市



市章：海老名市市章の周囲の円は、「エビナ」を図案化したもので平和を象徴しています。また、中央の形は鳥を表し、大きな飛躍を示唆しています。

市の鳥：カワラビワ
人口：125,520人(2007年7月1日現在)
面積：26.48km²

市制施行日：昭和46年11月1日
概要：神奈川県ほぼ中央に位置し、南北に長い地形の中央には、通称「相模横山九里の土手」といわれる相模丘陵の西崖が縦断し、西部の平地と東部の丘陵地帯に大きく二分されています。水田地帯は、温暖な気候と肥沃な土に恵まれた穀倉地帯であり、丘陵地帯は年々宅地開発が進み、著しい変貌を見せています。

平塚市



市章：昭和7年4月1日の市制施行を記念し、一般から公募したもので、同年10月1日に制定されました。図案は平塚市の「平」という文字をデザイン化したものです。

市の鳥：しらすぎ(コサギ)
人口：260,375人(2007年7月1日現在)
面積：67.88km²

市制施行日：昭和7年4月1日
概要：東京からJR東海道線の普通電車約1時間、相模川を渡ると、そこが平塚です。平塚は、相模平野の南部に位置し、海岸線から西北に広がる扇形で、相模川と金目川の下流域に発達した平野と、それを取り囲む台地と丘陵から形成されています。背後には丹沢・大山山麓が控え、西方には富士・箱根連山を遠望できる四季温暖な気候に恵まれたまちです。

寒川町



町章：寒川のサの頭文字を示し町の平和(円)と町民の団結(クサビ)を表している。

町の鳥：ダイサギ
人口：47,520人(2007年7月1日現在)
面積：13.42km²

町制施行日：昭和15年11月1日
概要：「優しさと輝きと うるおいのあるまち 湘南さむかわ」
寒川は、相模川のほとり、水とみどりに恵まれた自然と、歴史と伝統にはぐくまれた文化のあるまちです。

茅ヶ崎市



市章：「チガサキ」の「チ」を図案化した円形は、市の融和と団結をあらわし、翼状平行線は市勢の飛躍、発展を象徴しています。

市の鳥：シジュウカラ
人口：230,046人(2007年7月1日現在)
面積：35.76km²

市制施行日：昭和22年10月
概要：四季を通じて温暖という環境のため、明治から昭和初期にかけては湘南の別荘地、保養地といわれてきました。こうした自然に恵まれた住みよい条件のなか、神奈川県下で8番目の市として市政を施行しました。さらに東京、横浜への交通の利便性や恵まれた自然環境を背景に急激な都市化が進み、平成元年12月に県下で7番目の20万都市に発展しました。



アメリカザリガニの言い分

代弁人 天内康夫 / 環境カウンセラー

私はアメリカザリガニです。こどもたちには大人気なのに、われわれほどいろいろと悪し様に言われる動物は、ほかにいないでしょう。

私たちはかつて、食用のウシガエルのえさとしてアメリカから運ばれました。連れてきたのは誰でしょうか。それなのに、「里山でカエルを見かけなくなったのは、お前たちがおたまじゃくしを食べてしまうからだろう」「ドジョウやメダカが減ったのも、お前らの仕業だろう」などといいますが、とんだ濡れ衣です。

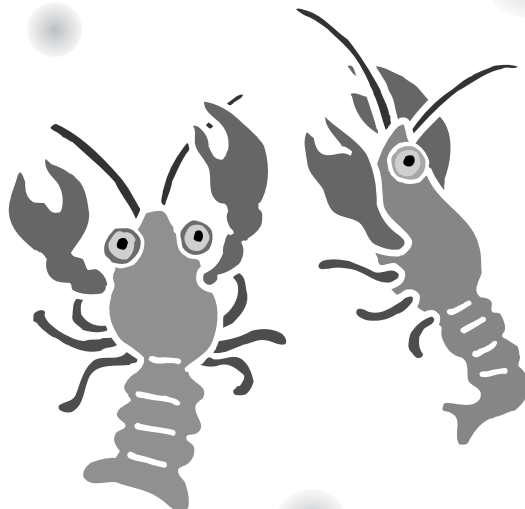
お前が来たから、昔からいたザリガニ(ニホンザリガニ)がいなくなった というのも誤解です。正確に言えば、私たちが増えたのは「ニホンザリガニが棲めない田んぼや沼でも暮らせるから」です。私たちが日本にやってこなくても、人間が産みだす環境悪化は、ニホンザリガニをどんどん棲めなくしたはずです。

田んぼのあぜ道に穴をあけるから困る。...だけは、お詫びするしかありません。私たちは基本的には夜行性で、昼は掘った穴の中でじっとしています。冬にはその穴の中で、ひっそりと眠って暮らします。だから日本のような冬に寒い土地でも生きられるのです。

昼に出歩くのはおもに、無分別な子どもや若者ばかりですから、人間の子どもの仲間を釣り上げたくらいではちっともコタエません。ツバメがどんなにたくさん飛んでも、虫がいなくなりほしくないのと同じで、人間の子どもたちはいわば、われわれの共生相手です。

困るのは、私たちの棲む場所が、穴の掘れないよくなつくりに変えられること。メダカやドジョウが水草のない川に生きられない最大の理由は、産卵の場所が失われるからですけれども、水路や沼、溜池までもがぜ～んぶコンクリート三面張りになったら、岸边に穴を掘れない私たちは暮らせません。それだけは真っ平ご免です。

もしも私たちがいなくなったら、日本の子どもたちは幸せでしょうか。もうそろそろ、お前たちは敵だ！ の偏見を捨ててほしいものです。



持続循環型社会に向かって ~これからの農業・未来農業への思い~

(さがみバイオマスリバー構想)

(株)グリーンピア相模原 桑田 俊夫

農業生産法人 株式会社グリーンピア相模原をスタートしてから、早くも五年が過ぎました。

そもそもグリーンピア相模原は、とある会合の席で「桑田さん、日本の農業はこれからもっと担い手不足で大変なことになる。従来と違った新しい視点で農業をやってくれないか」と、当時の農林大臣 高池(こうのいけ)さんと故・小川相模原市長から言われたことが始まりでした。

当時(現在のグリーンピアが経営する)モナの丘がある相模原市下溝にまとまった土地を確保できると

ということや小川市長の強い要請にお応えし、スタートしたのです。

当初はハーブ類を中心とした“市民参加型”の観光農園を基本に考えた農業経営を目指してきました。その傍ら、各種農業講習会・講演会に参加し、農業技術や経営の勉強をしてきた経緯の中で、BePCCS農法(Bio Eco Power Closed Cycle System)を提唱するBePCCS環境緑化研究所の田中榮一所長と出会い、その農法の講演と実習に参加し、従来の農法の価値観を大きく変えることになりました。

BePCCS農法

BePCCS農法との出会いにより、従来の単純な有機農法ではない、社会全体から見た新しい農業を考えるきっかけとなりました。すなわち循環型社会と農業、具体的には化石資源からバイオマス資源、微生物と農業という図式が明確に意識され、平成17年にBePCCS農法の根元である土壤活性液製造装置「あぜりあ」の50Kg/日の試験栽培を、を、2年半に渡り続けてきました。

生ゴミがわずか24時間で有機土壤活性液に!

土壤活性液
製造装置
の仕組み

Point1:アミノ酸を中心とした有機酸を生成
 Point2:畑の土=人間の体内~土壤活性液製造装置
 Point3:人間が植物を消化する仕組みと同じ構造



循環型社会に向かって農業を核としたバイオマスコンビナートの実現へエネルギー環境問題、少子高齢化社会、食糧資源問題などの指標を挙げて、なんらかの形で農業は関わってきます。

近年、海を豊かにするのは、海に注ぐ川の上流の森が豊かでなくてはならないということです。

漁師が中心となり、植林運動が活発に行われています。それは広葉樹林の落ち葉の微生物によって分解されアミノ酸となり、河川を通じて海に流れ込み、豊かな海を創り出すと言われています。

グリーンピア相模原では、本年8月より相模女子大学、利恵産業(食品加工企業)、日本環境緑化エンジニアリング(有機土壤活性液製造装置「あぜりあ」の販売部門)の4者で、食品残渣類を中心に、土壤活性液の定性・定量的なデータ収集、解析

を行い、アミノ酸の本格的な生産を行い、アミノ酸肥料によるブランド農作物の確立と、動・植物向けのサプリメント的な飼料、肥料の商品化をスタートさせました。

今後は、同県・市及び関係機関、団体の支援の元に、バイオマスコンビナート事業の実現に向かって全力を注いでいきます。

また、本事業に於いては、食・農・環境・自然などの教育の場として、幼稚園から大学、あるいは本事業に興味のある一般の方にも体験型施設として積極的に受け入れていきたいと考えています。

「追記」

「サガミ・バイオマス リバー構想」ということを思い描き、農業と微生物を核としたインキュベーター事業の先駆けとなればとの思いをしていたときに、相模川のお話があったのも、何かの縁と思い筆を執った次第です。

上野原市

ご近所の底力

きれいは、みんなに、気持ちいい。

「ゴミのない風景って、気持ちいいものじゃん？誰が悪い、なんてウダウダくっちゃべってないで、さっさとゴミを拾うべ」。こんな雰囲気です『UKK上野原をきれいにしよう会』は発足しました。中心となったのは、以前から桂川流域協議会にも参加し、個人的にも川の清掃やホタルを増やす運動を続けてきた矢島忠副会長。メンバーは、矢島副会長の呼びかけで集まった、別のいろんなボランティア団体・約20名の熟年世代です。基本活動は、河川や山あい、遊歩道その他の不法投棄ゴミや一般ゴミの清掃活動、その活動から派生する景観の整備作業や観光（景観）スポットの発見、再発見。毎月、第二土曜日に事前に決めた清掃重点



集められたゴミ

UKK上野原をきれいにしよう会 矢島 亮



活動を伝える看板の設置

スポットに現地集合して、2時間ほどゴミ拾いや草刈りを行い、自分たちの手に負えない不法投棄があった場合は市に連絡したりしています。ここで集めたゴミは、市のクリーンセンターに持ち込みますが、この処理費は市と協議して無料にしてもらっています。もちろん、UKKだけでできる清掃は限りがありますが、近辺住民の人たちが、私たちの活動する姿を見て、自分たちも清掃を始めるなど、良い波及効果も出てきています。先頃は、やまなし環境財団からの助成金を使って「きれいは、みんなに、気持ちいい」というUKKのメッセージを伝える看板を製作、ゴミの捨てられやすい場所に設置し、一般の方々へのPRも始めました。メンバーの拡充や各種団体との協力態勢作りなど、まだまだやるべき事はたくさんありますが、とにかく自分たちにも、みんなにも気持ちいい活動を続けていければ、と考えています。



私たちの活動が
NHKでとりあげられ
放映されました。
H19.3.26（月）PM10：00～
「ご近所の底力」

田名・望地の田んぼとゲンジボタルを守る会 小野 慎一

もうち 田名の望地のホタル保護活動



田名の望地全景

2007年度で5年間に亘った相模原市田名の望地の用水路改修工事（1300メートルの用水路の護岸改修及び遊歩道とその付属施設整備で、正式名称は『望地幹線用水路改修基本計画』）が終了します。

2003年度の第1期工事では、用水路河床の湧水が漏水のために干上がってしまい、ホタルどころか水生生物がまったく生息できないような状態でした。水漏れの原因は、重機による河床全面の掘削で粘土層が破壊され、ザルようになった河床から水が抜けてしまうこと。また、河床に湧水が10～20センチ程度しか溜まらないような望地の用水路に、アンカー式護岸の採用は不相当で、石積みの隙間から水が抜けてしまうこと。このような二つの原因で第1期工事区域は4年が経過した現在でも湧水は溜まらず、干上がったままです。

2004年度の第2期工事からは、私どもの会と市が話し合いを持ち、護岸改修の際の掘削幅をできる限り狭くし河床を大幅に残すこと、掘削した部分は漏水防止のために粘土質の荒木田土で埋め戻すこと、護岸の石積みの隙間から水が抜けないように埋め戻しを高く盛り上げるようにすることなどで合意し、年度ごとの工事に問題点があればその都度話し合いながら改善していくことになりました。これまでに経験のない用水路改修工事のために毎年何らかの問題が発生し、そのたびに話し合いを持ちながら改善して来ました。特に、一昨年の第3期工事では業者が先程の合意から外れた工事

を行ったため、市に申し入れし、翌年度の第4期工事では業者を含めた三者による話し合いを持ちながら工事を進めていくことになりました。つまり、市民・行政・業者の三者による話し合いの場を、工期前と工期途中に設定し、三者の合意によって工事を実施していくという方法を取ったわけです。それによって、第4期工事は設計・施工両面で最も改善された工事になりました。

この間、私たちの会は、用水路のごみ拾いや工事前に工事区域のホタルを中心とした水生生物を移動させる「ホタル救出作戦」を実施したり、5月下旬から7月上旬までホタルの数をカウントする「ホタル調査」をしてきました。また、第2期工事から漏水防止の目的で掘削した部分を荒木田土で埋め戻したのですが、予想外に水に弱く穴が空いてしまうため、穴に赤土を詰め込んで漏水を防ぐ作業を実施してきました。

以上のような市民・行政・業者の三者の協力によって、6月10日前後のホタルが飛ぶピーク時に、一昨年度約700匹、昨年度は約1800匹を確認できました。

ところが、本年新たな問題が発生しました。6月2日



ゲンジボタルの幼虫

にホタルを大量捕獲し持ち去る事件が発生しました。目撃者によると、3人の若者がゴミ袋のようなビニール袋にホタルを詰め込んで持ち去ったということです。伝え聞いた私たちは、これ以上の捕獲は許してはならないと、それ以降パトロールを実施するようになりました。しかし、このようなパトロールだけでは限界があり、行政サイドの対応を求めていく必要があるのではないかと考えています。例えば、「ホタル保護条例」などの法規制を設けることで、市民によるパトロールを行政が背後から支えていくという方法が考えられます。この問題でも市民と行政の協力によって解決していく必要があると改めて感じているところです。

地域協議会だより

桂川・東部地域協議会「地域協議会だより」

実施済事業：総会・講演「水源地の整備・流域材の活用」(4/21)。大月市笹子町での大月森づくり会主催「植樹体験」事業に参加(4/30)。流域協議会が参加する「全国水質一斉調査」への協力参加(6/3)。「排水処理研究事業(2007年度は本会との共同調査事業)」の一環としての合併処理浄化槽先進地(岐阜県環境整備事業協同組合及び同県揖斐郡揖斐川町)視察(8/22)。上野原市鶴川支流のクリーンキャンペーン(9/15)。忍野村で開催された「上下流交流事業：忍野八海クリーンキャンペーン」への参加・協力(10/7)。



今後実施予定事業：洗剤及び化学物質使用の合併浄化槽への影響についての学習会(11月実施予定)。大月森づくり会が定期的実施する森林整備活動へ参加・協賛(11月実施予定)。合併浄化槽の経済的・費用的検討(未定)。平成19年8月～平成20年3月まで毎月上野原市の測定ポイントにて「NO₂測定」を実施する。「桂川の支流クリーンキャンペーン(都留市)」(3月開催予定)。流域材活用に向けたキャンペーン。(随時)

相模川湘南地域協議会

2007年度前半の活動記録

- 4/14 総会開催
- 4/14 シンポジウム「近世、相模川の舟運と地域の人々」開催
- 4/15 環境応援団「いっぽ」の河川清掃に参加、湘南野鳥図鑑を配布
- 4/18 平塚市立真土小学校へ「湘南野鳥図鑑」(30部)を提供
- 4/29 平塚市緑化祭り参加
- 5/15 会報紙「清く豊かに相模川」創刊号発刊
- 5/20 クリーンキャンペーン実施 45名参加
- 5/20 茅ヶ崎海岸の観察
- 6/3 「身近な水環境の全国一斉調査」参加
- 6/15 国土交通省「相模川河川整備基本方針と相模川整備計画」に出席
- 6/16・17 茅ヶ崎環境フェアに参加
- 6/23 横浜国大「空間情報プラットフォーム」に参加
- 6/23 「相模湾海辺の環境学習会議」に参加
- 7/1 ひらつか環境ファンクラブ交流会参加
- 7/21・22 夏休み自然教室(茅ヶ崎市)に参加
- 9/22 水環境調査結果報告会(ひらつか市民活動センター)
- 9/30 ひらつか市民活動センター祭り

今後の予定

- 湘南地域協議会のホームページを開設
- 会報紙第2号を発刊
- シンポジウム「第2回湘南の豊かな自然に生きる野鳥たち」と野鳥観察会(11月)
- 樹林地図作成検討会(日時未定)

さがみはら地域協議会

4月21日の総会を経て、鳩川・縄文の谷戸の会と協力委託の「里山体験講座」、相模原市環境情報センターと共催の「夏休み環境学校」を実施してきました。里山体験講座の募集を各社新聞社が取り上げてくれたため、多くの問い合わせが殺到し、また、ニッポン放送でも話をする事で、多数の参加者で行なうことができました。11月の収穫祭を待つばかりです。

【さがみはら
環境まつり】
6月3日
展示参加

【里山体験講座】

6月10日：田植えと
ホタル観察会
8月26日：生きもの観察会
9月23日：稲刈り



稲刈りを終えて記念撮影

【夏休み環境学校】

7月21日

道志川、青野原オートキャンプ場にて
生きもの観察と森林観察、川渡り



道志川にはどんな魚が...



TVの取材もありました

相模川よこはま地域協議会

4月29日(日)「よこはま水と緑の日」に出展：東神奈川駅近くの海岸で開催。海草・アマモの移植、海の生き物ふれあいコーナー等々、約2,000人の来場者でにぎわった。当会から3名参加し、桂川・相模川水源環境の紹介と水の飲み比べを開催。当会友澤さんは「水の飲み比べは200名の家族、子ども達が参加し大人気だった」と感激。横浜市水道局からははまっ子どうし等パネル3点の提供等。

4月30日(月)大月森づくり会の活動に参加：当会から2名が恒例の植樹祭に参加。

5月14日(月)当会の総会開催：11名の出席で事業報告と事業予算案が可決。先に、県水産技術センター内水面試験場勝呂尚之主任研究員より基調講演「魚から見た多自然川づくり」あり。

6月2日(土)明治学院大学第10回戸塚まつり(ボラセンまつり)に出展：当会から3名参加。水源環境の紹介と水道水のPR。水道局のパネル提供等あり。

6月3日(日)身近な水環境の一斉調査を柏尾川等で実施：当会の5名が参加、今年で3年目。

7月8日(日)都留市夏狩「わさびとホタルの夕べ」に参加：水を愛する会が開催。上流域の魅力再発見のため当会から4名参加。菊池農園にて無農薬わさびの収穫、柄杓流川の散乱ゴミ回収等に参加。その後地産地消を堪能。総勢は約25名。

7月13日(金)当会の役員3名が横浜市水道局訪問、意見交換。他日には県内広域水道企業団、全水労等を訪問し、意見交換を行った。広く会員に広報する重要性を確認。

他に、当会の数名が水源環境保全・再生かながわ県民会議、横浜国大・神奈川拡大流域圏研究会、全国浄化槽フォーラム等々への出席・参加などあり。



～お知らせ～

流域シンポジウムに参加しませんか。

桂川・相模川からのメッセージ ～水質と農薬のかかわり～

桂川・相模川流域の豊かな水の恵みを後世に伝えていくため、水源地域での水質保全のあり方や河川のごみ問題などについて、流域全体の保全という視点から現状や問題を改善する取り組み、今後の展望など、学識者も交えてみんなで考えてみましょう。

日時：11月23日(金)
13:00～16:00

会場：愛川町文化会館

※パネル展示を予定しています。



桂川・相模川流域協議会入会のご案内

あなたのその力が豊かな水環境を創ります。
協議会では、さまざまな活動を通じて、水源環境の保全・再生に努めています。

桂川・相模川流域協議会に興味を持った方はぜひ入会してください。

- ◎個人会員は 年会費 1口 1,000円(1口以上)
- ◎団体会員は 年会費 2口 2,000円以上
- ◎事業者会員は年会費 1口10,000円(1口以上)です。

詳しい案内はこちら

郵便振替：振込口座 00220-5-10259
振 名 義 桂川・相模川流域協議会
込 銀行振込：振込口座 三井住友銀行横浜支店
先 普通口座 6825559
名 義 桂川・相模川流域協議会
代表幹事 河西悦子

事業のご案内

桂川・相模川 クリーンキャンペーン

当協議会では、桂川・相模川流域の各地域で、ゴミの清掃活動等を実践している方や団体を支援しています。事務局にゴミの清掃活動等の実施予定をお知らせいただいた方や団体には、軍手やゴミ袋(国土交通省京浜河川事務所提供)、水質調査キットなどの物資を提供します。

また、ご提供いただいた実施予定情報を、リーフレットの配布やホームページへの掲載により、年2回、情報発信しています。お住まいの近くでクリーンキャンペーンが開催されるときなどは、是非ご参加ください。

編集後記

「編集に参加して、早くも19回を数えます。桂川・相模川の水質に対する責任は、流域に住む、そして関わる全ての人々がなすべきものと考えています。(M・N)」

「協議会の中味がわかるように、流域の様子がみえるように、水に関心を持てるようにと願いながら作っています。(M・K)」

「いま『アオコが消えた諏訪湖』という本を読んでいます。協議会発足のころは「諏訪湖よりはまし」などと気休めを言っていたのだが・・・(I・K)」

「暑かった夏、川の生き物たちはどうしていただろう。私のようにお昼寝だったろうか。(T・T)」

「編集作業が終わった今、11月のシンポジウムの準備中です。ぜひご参加を!(A・T)」

「日本の水環境は悪化しているのも事実ですが、石油より高い水を飲んでいる人々もいるということ、この夏日本を出て知りました。(H・S)」



この印刷物は色覚障害の方に配慮し制作しています。

本誌に対するご意見・ご感想を下記事務局までお寄せください。

あじえんだ113 No.19(2007.10.31発行)

発行 桂川・相模川流域協議会
編集 あじえんだ113編集委員会

桂川・相模川流域協議会ホームページアドレス <http://www.katura-sagami.gr.jp>

事務局 山梨県富士・東部林務環境事務所 〒402-0054 都留市田原三丁目3-3 TEL 0554-45-7811 FAX0554-45-7807
神奈川県環境農政部大気水質課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL 045-210-4127 FAX045-210-8846

(この冊子は再生紙を使用しています)